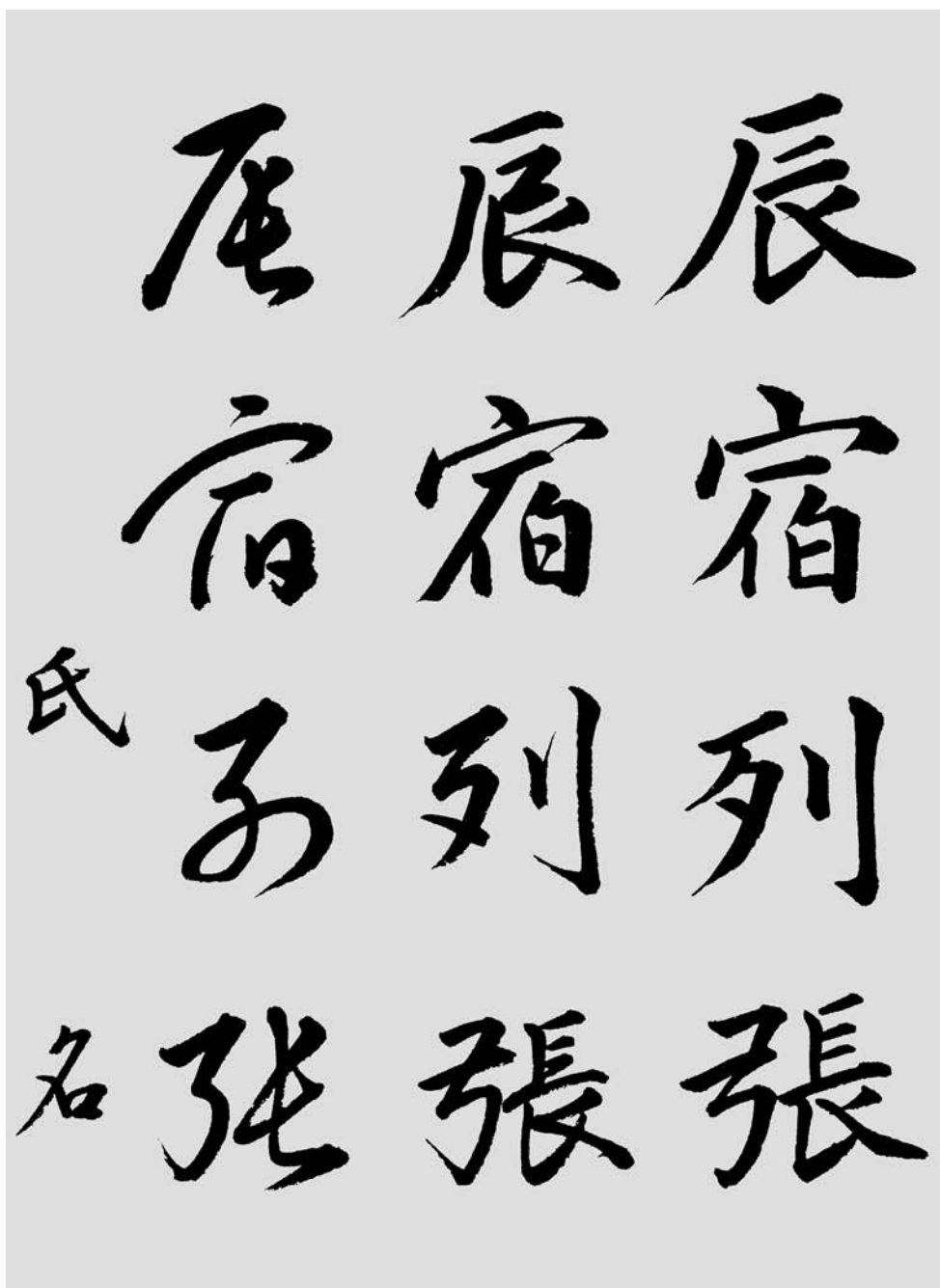


□作品の出し方

- ▼硬筆部 B5判(二五七mm×一八二mm)以下の紙に書いて下さい。用具は自由です。(黒色に限る)
- ▼毛筆部 半紙に書いて下さい。(筆ペン可)
- ▼出品制限の対象とはしませんが、出品は硬・毛のどちらか一方に限ります。

- ▼事務処理上、支部略称・氏名・会員番号・硬筆規定の成績(毛筆の場合は毛筆漢字の成績)を、作品余白にお書き下さい。
- ▼優秀作品は、写真版として成績表の後ろに掲載しますが、成績表での順位発表はしません。

奥村憲照先生書



◆硬筆の専門誌だった大書心に一般毛筆部が設立されたのは、昭和五十六(一九八二)年四月のことです。

◆「三体千字文」の一課題からスタートしましたが、憲照先生の穩健中正で気品のある毛筆手本が好評を博し、「硬毛一致」の新しいスローガンを打ち立てて毛筆部の充実を図り、本会の発展へとつながりました。

◆原点に返って、基本用筆と正しい崩し方をしっかり学びましょう。

〔千字文〕

四言古詩二五〇句、重複しない千字からなっており、聖徳・修養・修身・齊家等について述べられた習字手本であり、初学者の教科書でもあった。

梁の武帝(在位五〇二―五四九)の命を受け、周興嗣が王羲之の筆跡中からまとめたといわれる。

〔解説〕

日月盈昃
辰宿列張

日はきまり正しく運行し、月は満ちまたかける。

星座は天高く連なり輝き、

準初段から六段まで

新入から1級まで

〔解説〕

〔解説〕

復

讐

常

弱

心

快

楽

◎教範・書範は右課題を「行草または草書」で、師範は「行書」で出書して下さい。
 ①楷書のバランスのとおり方は、縦画は垂直にして、横画は右上がり、字画が一画ずつ離れて書かれている。どの字もいろいろの画で組み立てた建物のようなものです。

心の快樂である
 ちっぽけで弱い
 復讐は常に

おか だ りゅう ほう 書
 岡 田 龍 芳 書

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会段位用紙

測	物	人
ら	差	間
れ	し	は
ぬ	で	
	は	

おお たに せい じょう 書
 大 谷 清 城 書

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会級位用紙

人

間

物

差

測

のののの

◆5月課題予告（楷書）

忍耐は何事も
 成し遂げる
 フランス

★復讐は：（書体＝楷書）

ユウエリナス（五〇頃～三〇頃）

ローマの詩人

古代ローマでは復讐は男らしい行為で、復讐しないのは臆病者だという考え方が支配的でした。日本でも仇討ちが認められていた時代があります。しかし社会が成熟するにつれ、復讐は個人の気を晴らすだけで社会的には有害であり、法が公正に裁く制度へと移っていきました。

◆5月課題予告（行草または草書）

無智はいつでも
 有智よりも優越する

吉川英治

▼教範・書範＝行書

▼師範＝楷書

★人間は：（書体＝行書）

フランスのことわざ
 人を外見の大きさだけで判断することの愚を戒めることわざです。
 人間の価値を、その背丈の大きさや見かけで判断することなどできません。その人の気力、熱意、行動力、また愛情の深さなどによって真価が問われるのです。

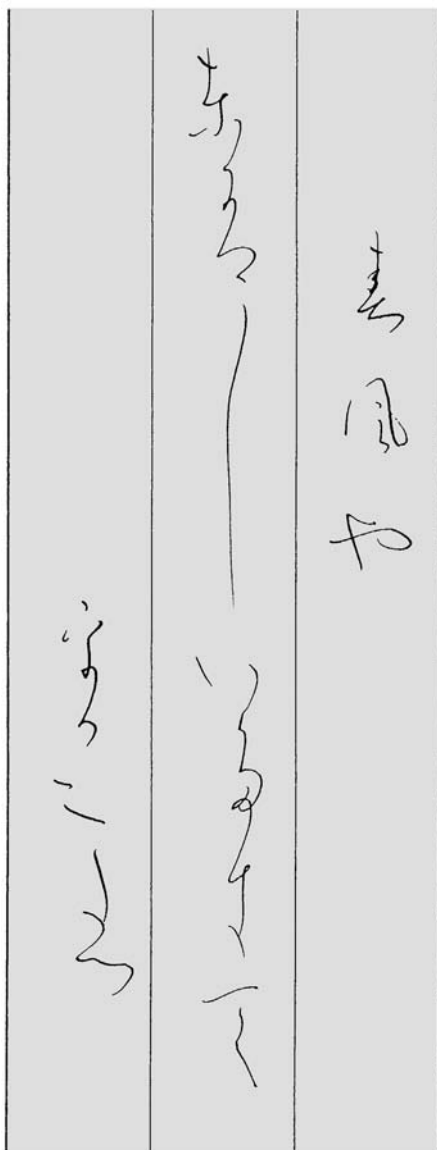
一般部かな課題

締切り 4月24日(必着)

準初段から六段まで

新入から1級まで

春風や闘志^{東有し}いだきて丘^{多支天乎可二多}に立つ

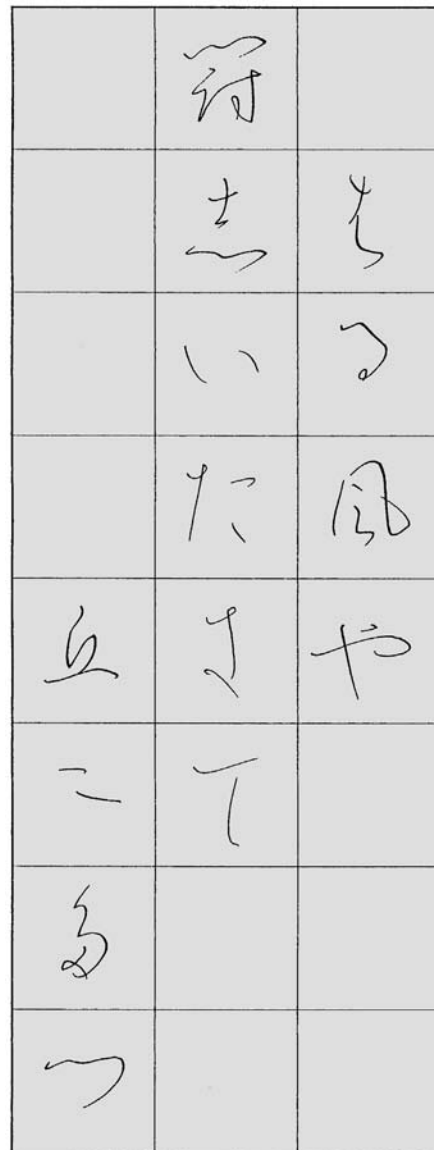


おお みや しゅん ちょう 書
大 宮 春 兆

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会段位用紙

春風や闘志^者いだきて丘^{二多}に立つ



おお みや しゅん ちょう 書
大 宮 春 兆

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会級位用紙

◆5月課題予告

白藤^{しろふぢ}や揺り^{ゆり}やみしかばうすみどり

(芝不器男^{しばふきお})

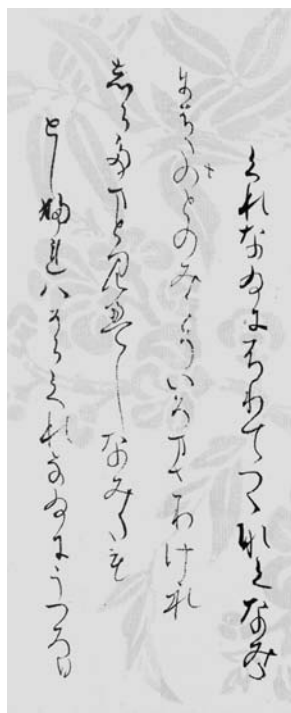
多 乎 有 東 者
多 乎 有 東 者
多 乎 有 東 者
多 乎 有 東 者
多 乎 有 東 者

〔古筆参考〕

春風や闘志^{はるかぜ}いだきて丘^{とうし}に立つ^{をか}
(高浜虚子^{たかはまきよし})
〔句意〕時は春、折しも万物の生長を促す春風が快く吹いている。たぎり来る新たな俳句への思いを抱いて、この春風の丘に立つことである。

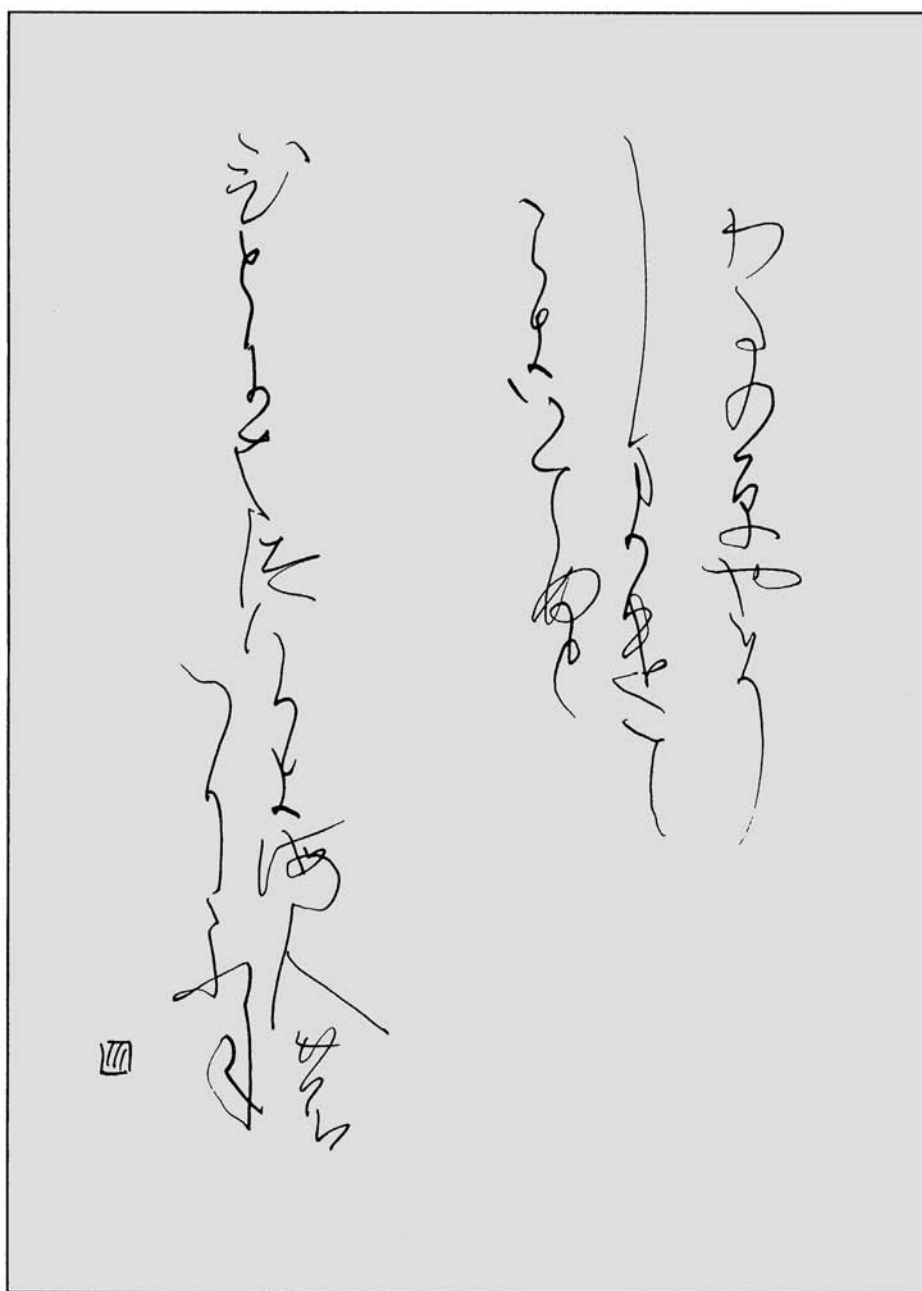
〔古筆参考〕

ほん あ み ぎれ
本阿弥切



締切り 四月二十四日（必着）

築瀬舟香書



くれないなるにふりてつゝなくなみだ
にはたのとのみこそいろまさりけれ
しらたまと見えしなみだも
としふればからくれなるにうつろひ

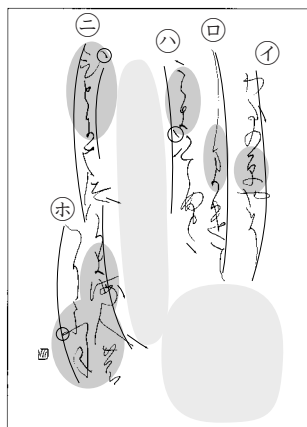
〔解説〕

（新潮日本古典集成）

わたの原八十島かけて漕ぎいでぬと
人につげよ海人の釣り船
小野篁朝臣
おののたかむらのあそん

〔歌意〕大海原に浮かぶ島々を野宿の地とめざしめぎして、私は遠い隠岐の国へ漕ぎ出して行つたと、都の人々に云って欲しい、漁をしている釣船よ。

〔出典〕古今和歌集



- ①と②、①と③、②と③、②と④、③と④、④と⑤、それぞれ呼応。
- 大きな間大切。
- 行の中の密の動きに注意。
- の方向に注意。
- ①の点の位置大切。

本阿弥切とは③

この古筆は本阿弥光悦の愛蔵によりこのような名前がつけましたが筆者は小野道風と伝えられています。時代は十二世紀前半と伝えられています。

参考資料「日本書道辞典」

「古筆に学ぶ」共に二玄社

◆5月課題予告

唐衣着つなれにしつましあれば
はるばる来ぬる旅をしぞ思ふ

締切り 4月24日(必着)

この度は入学祝いを有難うございました。長年の夢だった工業系の学校に進学が決まってほっとしています。検定取得などの次の目標に向けて一所懸命頑張りますので今後とも応援をお願いいたします。

この度は入学祝いを有難うござい
ました。長年の夢だった工業系の
学校に進学が決まってほっとし
ています。検定取得などの次の目標に
向けて一所懸命頑張りますので
今後とも応援をお願いいたします。

◎手本は水性ボールペン使用

作品の出し方

- 新人から師範まで、どなたでも出書できます。成績は評価により毎月変わります。
- 用紙Ⅱはがき課題ははがき用紙、横書き課題は一般部段位用紙を横に使用。
- 用具Ⅱはがき、横書き課題ともに自由。(黒色に限る)
- 両課題とも、書体変換は自由です。

横 書 き 課 題

おか しま けい せん
岡 嶋 桂 川 書

三折法とは、一つの点画を3段に分節して書く書き方をいいます。

栃木県足利市 氏 名

※手本は、つけペン使用。 ★三行目は、指定の地名と氏名を書いて下さい。

一般部毛筆漢字課題

締切り 4月24日（必着）

丕承鴻業明玉

平承鴻業明玉

〔出典〕孔子廟堂碑（626～633）〔筆者〕虞世南（558～638）

〔読み〕^{おお}丕に鴻業を承く。玉（鏡を）明らかにして

準初段から師範まで

奥^{おく}村^{むら}暢^{のぶ}之^{ゆき}臨

山花開似錦

〔読み〕山花開いて錦に似たり

〔大意〕花はやがて散るからこそ咲き誇る。そのひとときは美しく無常だ。

新入から1級まで（行書）

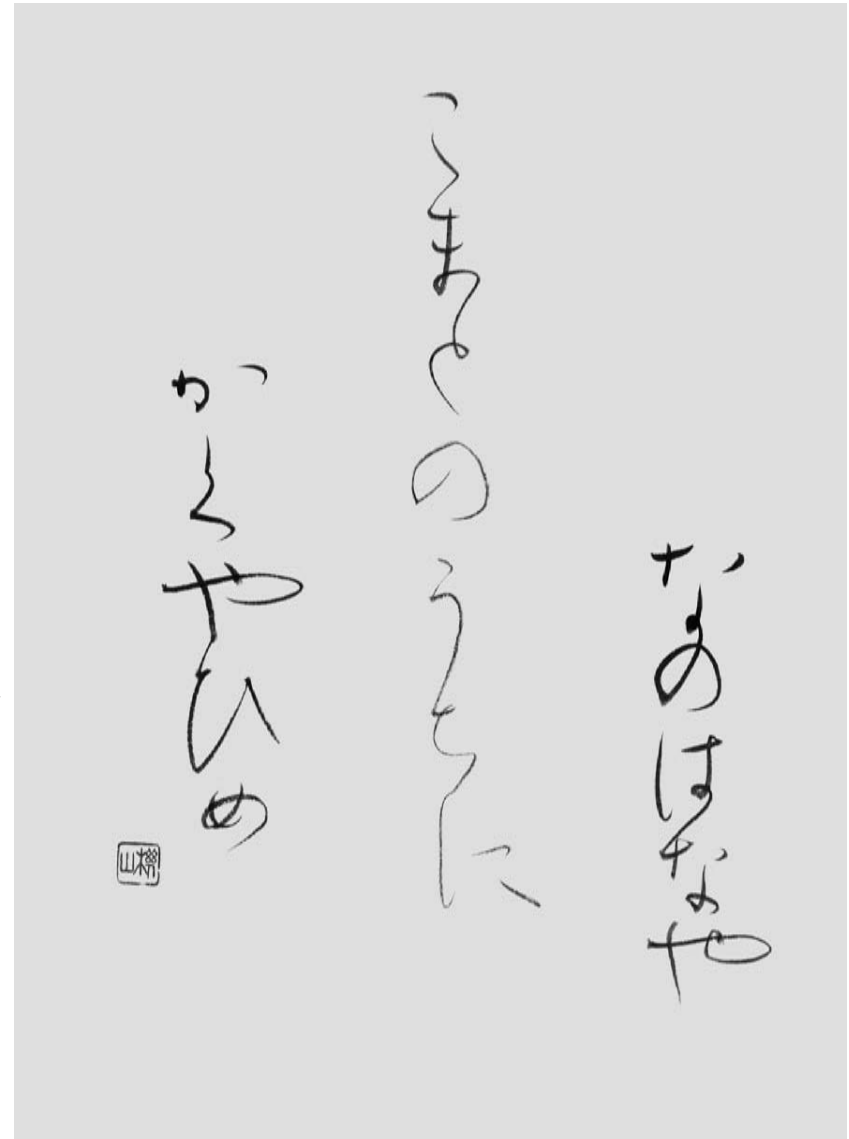
澤^{さわ}静^{せい}雨^う書

一般部毛筆かな課題

締切り 4月24日（必着）

新入から1級まで

浅井機山先生書

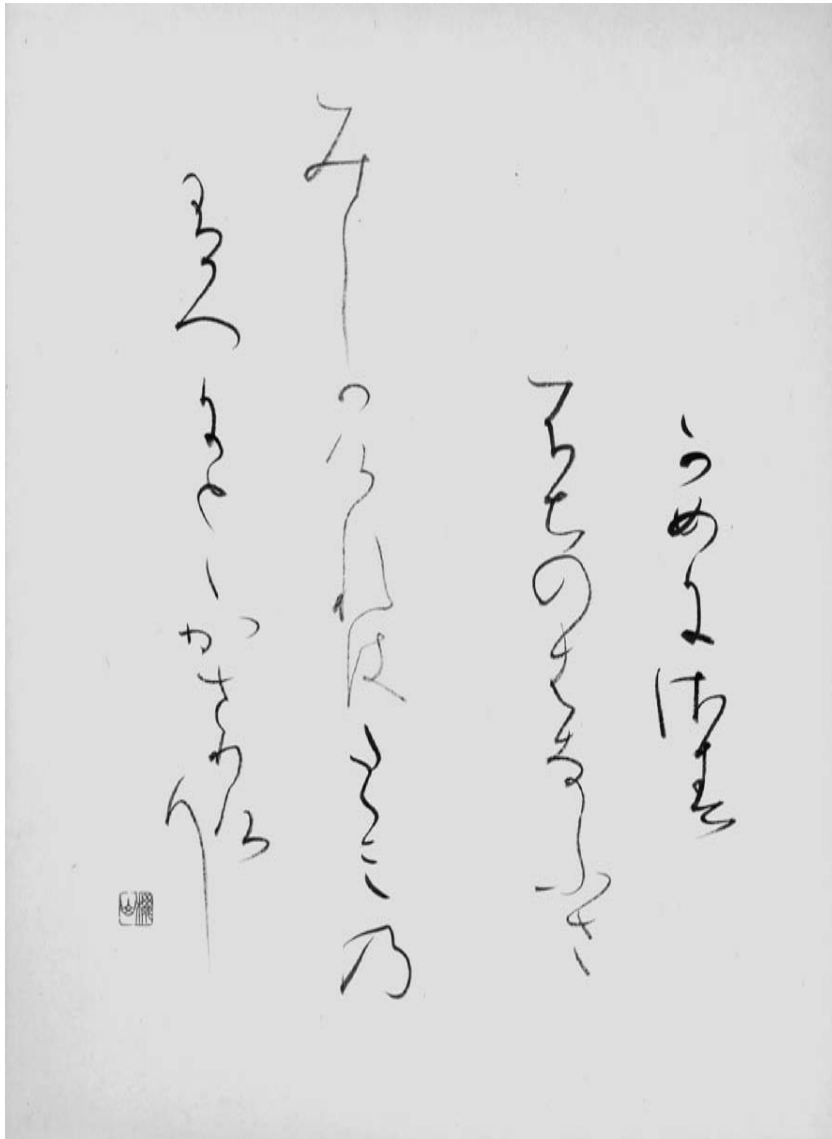


〔出典〕 建部巢兆

〔句意〕 畠に菜の花が一面に咲いている。遠くの家窓にはかわいらしい女の子がかぐや姫のようにみられる。

準初段から師範まで

■ 両課題とも文字の変換、ちらし方は自由です。

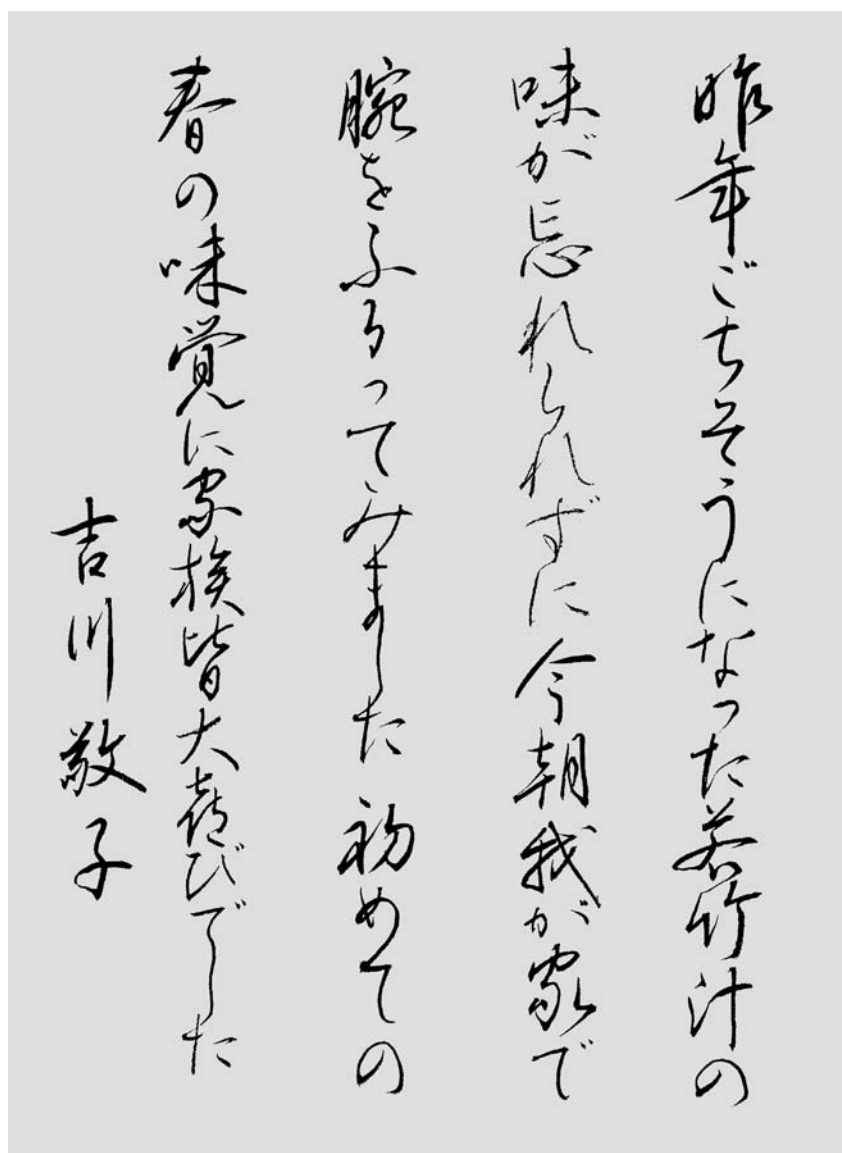


〔出典〕 正岡子規

〔歌意〕 仰向けに寝ながら見る机の上の花瓶の藤の花はゆったりと垂れ、その房は短いので、畳の上にもう少して届きそうなのだが届かないなあ。

可あ 瓶にさす藤の花ぶさみじかければ
多、三乃有へル、利介
たたみの上にとどかざりけり

一般部毛筆細字課題



半紙 (334mm × 240mm)

書 華 玲 田 樋

- 印で墨つぎしました。
- 〔条幅・細字作品の出し方〕
- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。
- 成績（天位〜5等）は、評価により毎月変わります。
- 書体変換、変体仮名の交換は自由です。

（ご自分の氏名）

昨年ごちそうになった若竹汁の味が忘れられずに今朝我が家で腕をふるってみました初めての春の味覚に家族皆大喜びでした

〔条幅解説〕 書く枚数を重ねる程に、或いは書く意欲が高揚する程に字粒が大きくなり勝ちです。即ち余白の美しさがそこなわれるのです。白と黒との対比は大切な事です。字粒を少し小さく引き締めてみると字が強く見えるのも事実です。一流展をめざす方は心すべきです。多くの添削作品を拝見して感じた事を申し上げます。

一般部毛筆条幅課題



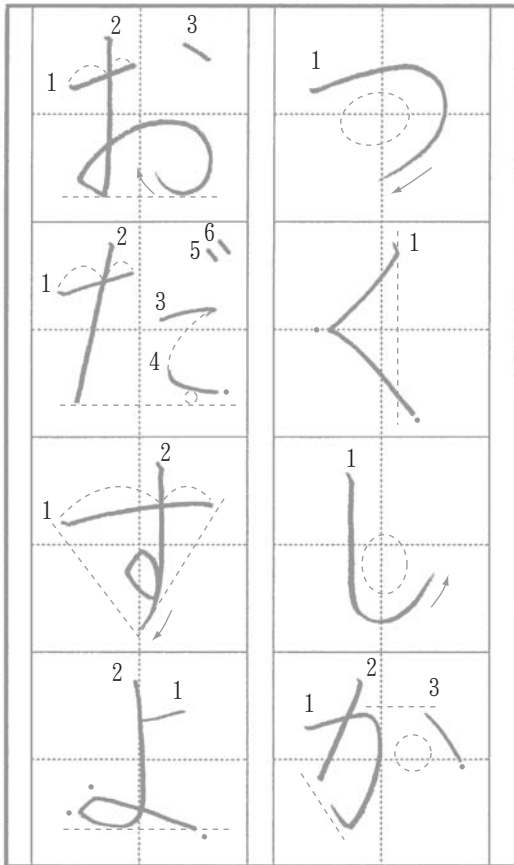
締切り 四月二十四日（必着）

半切（一三六cm × 三五cm）

荻 田 蒼 仙 書

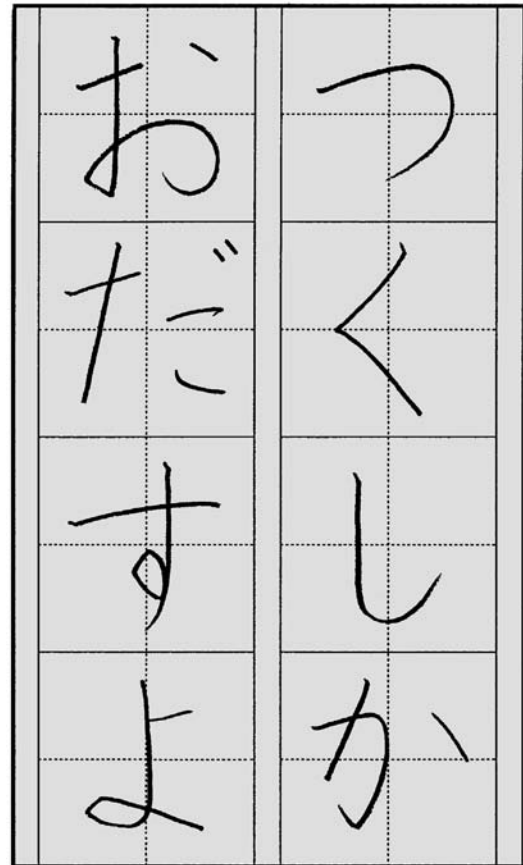
山中自可全高節
天下難居是盛名
〔大意〕 俗事を離れた山中にあって気持ちちは高潔でありえるが一般世間では諸事煩わしく住みにくい。
初出品の方へ
支部名・会員番号・姓名・毛筆漢字成績を、作品左下に必ずお書き下さい。

〈ようぐ〉自由(黒色にかぎる)



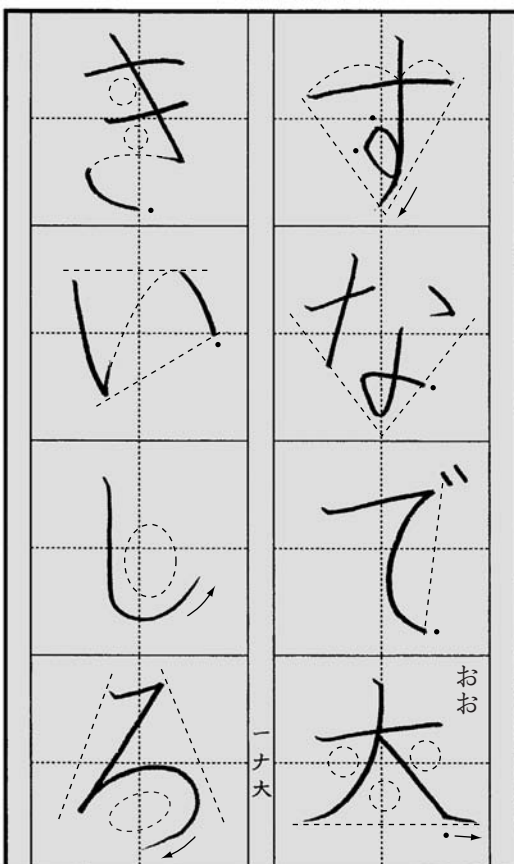
◆ひらがなトレーニング(なぞってかいてみよう)

★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。
★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。



よ
う
年

幼年〜小三年 三宅容玉書



新入〜1級

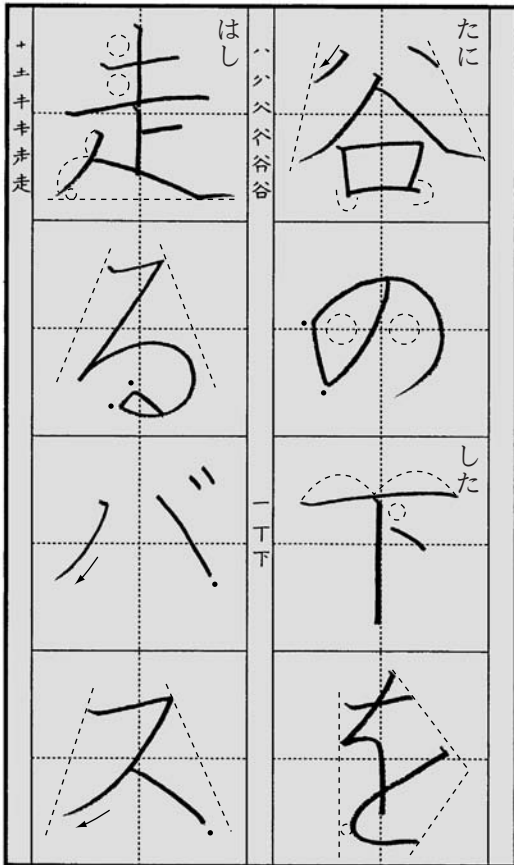
(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。



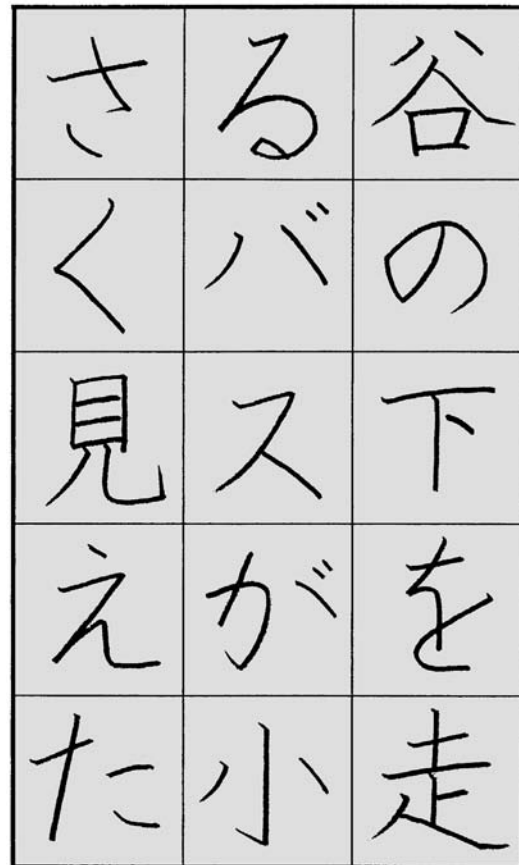
新
小
一
年

準
初
段
以
上

〈ようぐ〉自由(黒色にかざる)

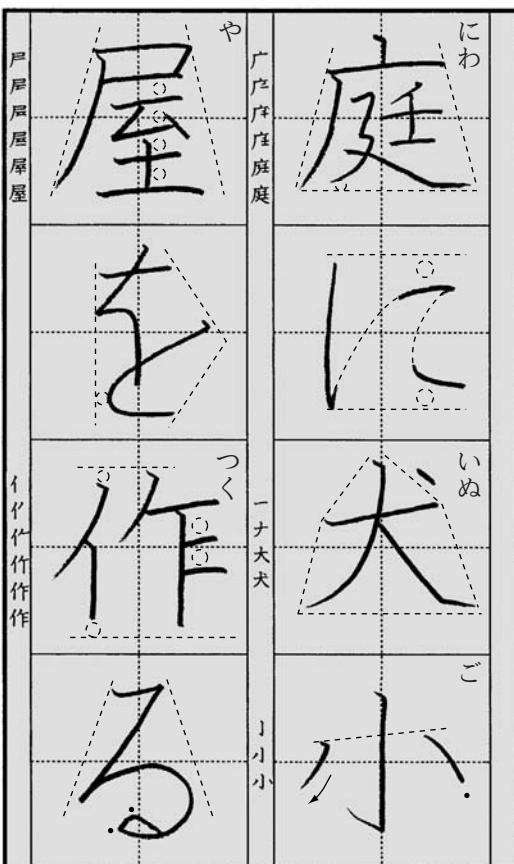


新入〜1級



新小二年

準初段以上



新入〜1級



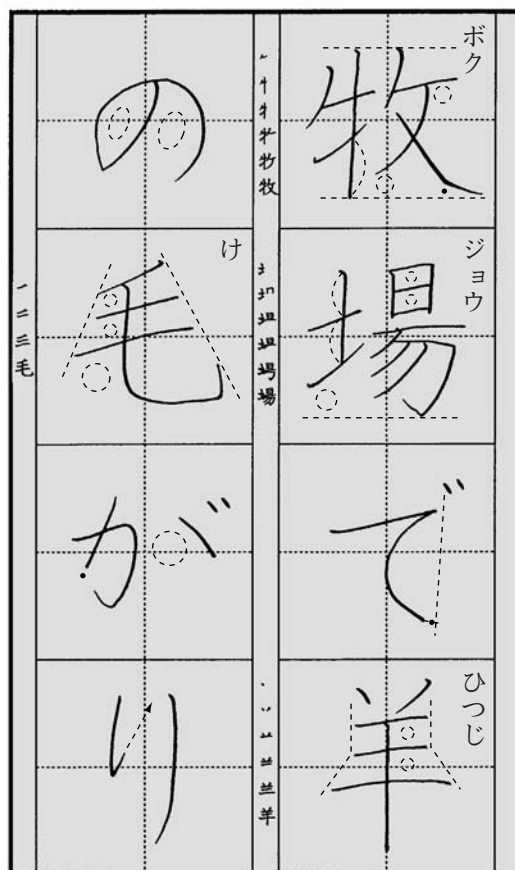
新小三年

準初段以上

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

新小四年

(全員)



新四年生は、左記により、全員この手本どおり8マス用紙で出書してください。

記

- * 用具は自由ですがデスクペン、つけペンで書く人は、硬^{かた}くならず、のびやかに書く習慣をつけることが第一目的です。
- * 六月締切り分までは、この方法が続けます。
- * ペン書きの人は早く慣れるよう、たくさん練習をしましょう。
- * 七月締切り分からは、準初段以上は従来どおり15マス用紙を使用してください。

〈用具〉自由（黒色に限る）

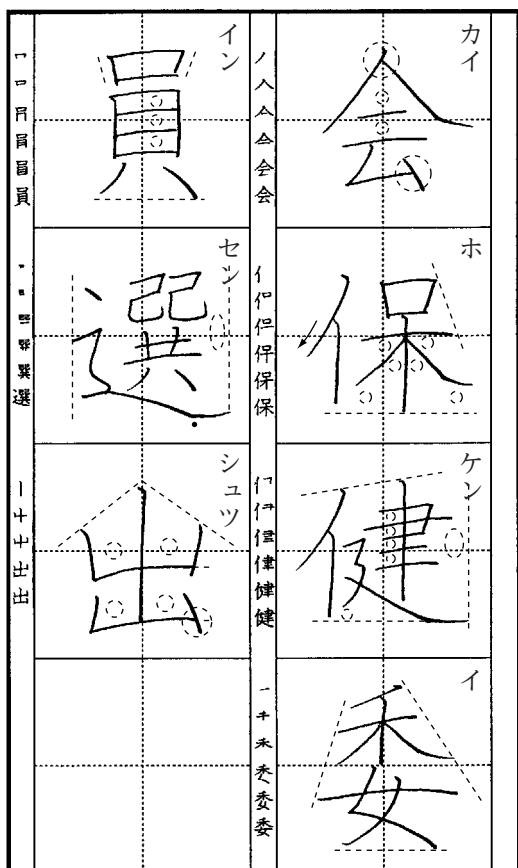
新小五年

(全員)



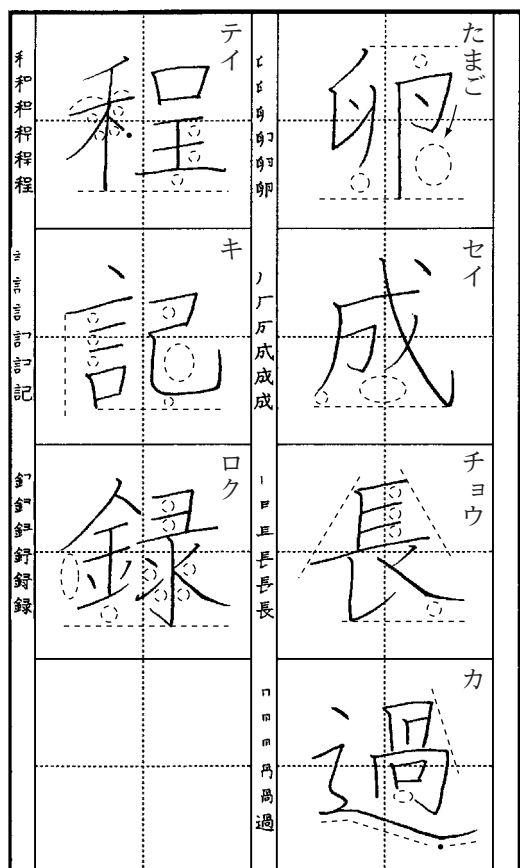
小五以上は、全員15マス用紙で出書して下さい。

解説（よく見て習いましょう）



小四以上 須田 葉書

〈ようぐ〉自由(黒色に限る)



解説(よく見て習いましょう)

新小六年



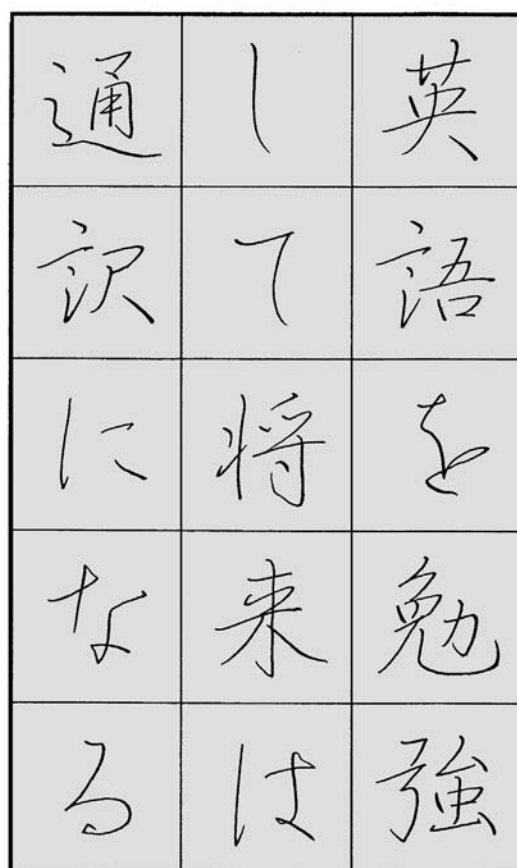
(全員)

◎お手本は、つけペンで書きました。



新中二・三年 (行書)

新中一年 (行書)





こどぎのひろば



幼年

ま	め	ひ	か
る	が	よ	わ
い		こ	い
			い

新小三年

つ	元	え	大
ば	気	さ	き
め	い	を	な
の	っ	お	口
子	ぱ	ね	あ
	い	だ	け
		り	

新小六年

空	ゆ	円	二
を	う	い	わ
飛	ゆ	輪	の
ん	う	を	と
で	と	か	ん
い		い	び
る		て	が

新小一年

う	た	ま	に
み	ま	い	わ
ま	ご	あ	と
し	を	さ	り
た			が

新小四年

わ	日	白	美
た	本	鳥	し
り	へ	は	い
鳥	冬		す
	来		が
	る		た
			の

新中一年 (楷書)

遊	親	高	中
ん	子	い	部
で	の	山	地
い	雷	の	方
る	鳥	花	の
	が	畑	

新小二年

う	た	か	カ
た	の	ご	ナ
っ	し	の	リ
て	い	中	ア
い	う	で	が
ま	た		
す	を		

新小五年

聞	ひ	春	野
こ	ば	を	原
え	り	喜	や
ま	の	ぶ	畑
す	声		で
	が		は

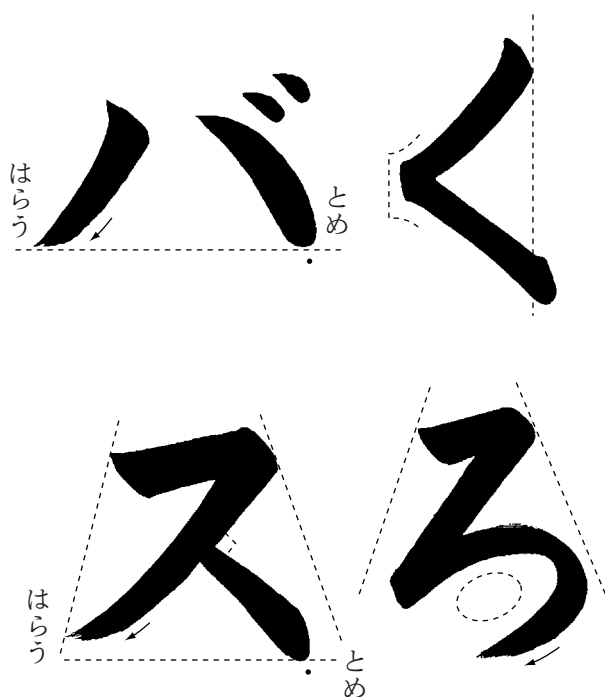
新中二・三年 (行書)

鶴	夕	美	自
は	焼	し	分
消	け	い	の
え	の	布	羽
て	空	を	で
ゆ	へ	織	
く		り	

▼今月は、席書大会開催に合わせて特別に席書課題をひろばの課題とします。本番に向けてサインペンで練習してみましよう。

▼4行用紙のない場合は、いつも通り5行用紙に書いても構いません。体裁よく収めてください。用具も自由です。

幼年しょうねん・小二年
玉樹たまき小華書





小三、小五年

水野香竹書

中二・三

所感

小六

記録

小六・中二・三年

奥村暢之書

記 所 感
記 録 通

中一

通記